

ブイエスゼロさん

県育成イチゴ新品種「熊本VSO3」の 愛称決定！！

1. 決定した愛称

「ゆうべに」

最優秀者 ^{やのゆうじ} 矢野祐二さん（熊本市）

命名理由：熊本の熊を取り入れて「ゆう」、
イチゴの紅色から「べに」で「ゆうべに」。
果実の中の赤色や女性の口紅や頬紅の
色、そしてクリスマスを華やかに彩るイ
チゴというイメージからです。



2. 一般公募について

この新品種のPRを目的に、平成27年6月25日～7月17日の期間で愛称募集を行った結果、全国から5,178通の応募がありました。

選考は、学識経験者、消費者及び生産者を含む9名の選考委員会で8点に絞り込んだあと、知事が最優秀作品として「ゆうべに」を選定しました。

なお、最優秀者の表彰を、11月25日（水）に行う予定です。

3. 「ゆうべに」の特長

- 色は既存品種の「さがほのか」に比べ濃い赤色で、粒が大きい。
- 甘さと酸味のバランスが良く、上品な食味。
- 既存品種に比べて、販売単価の高い11月～12月にかけての収量が特に多く、収穫期全体を通しての収量も多いことから、収益性が高く、農家所得の向上が図られるとともに、生産者及び作付面積の減少に歯止めがかかることを期待。

4. 「ゆうべに」の生産・出荷及び普及について

本年度（平成27年度産）は、6地区（玉名、菊池、鹿本、阿蘇、八代、球磨）で約2haの栽培を実施。11月中旬から、県内はもとより、関東・関西・中京地区へ出荷・販売される予定。

平成28年度産は、県下全域で栽培面積25ha以上を目指し産地化を進める。

5. 「ゆうべに」の品種育成について

本県は全国3位の出荷量を誇るイチゴの生産県ですが、既存品種の収益性が不安定なことや、生産者の高齢化及び後継者不足などにより、県内のイチゴの生産者及び作付面積は年々減少しています。

そこで、県農業研究センター農産園芸研究所では、県内栽培面積の6割を占める「さがほのか」に代わる品種として、平成17年から品質・収量ともに優れる収益性の高い品種の育成に取り組み、平成26年に「熊本VS03」を選抜しました。

お問い合わせ先

熊本県農林水産部 園芸課野菜班

田中、^{えきの}浴野 TEL：096-333-2393

農業研究センター（新品種の育成関係）

農産園芸研究所 三原、田尻

TEL：096-248-6444